



図書館だより

ほくと 81号
八王子北高校図書館
2024年9月

文化祭おつかれさまでした。夏休みが明け、今年も残り四か月。(配信される頃にはもう残り三か月?)

読書の秋!なんて言われますが、つつい食欲の秋になってしまいそうな司書二人です…。

なんだかちょっと切なく感じるこの季節。温かいコーヒーでも飲みながら、片手に本はいかがでしょう。

他の都立学校図書館から本を借りることが可能に!?



そんなとき、他校の図書館から本を送って頂き、利用可能になりました。

・申し込み

毎月20日、締め切り。

→本が届くまで約一ヶ月かかる為、

利用されたい月の二ヶ月前20日までにご相談下さい。

(例: 12月に本が必要→10月20日までにご相談を)

・貸出期間について

→各校の規定に基づいて行われるため、
その都度相談させていただきます。

※小説や漫画等はこれまで通り、リクエスト対応させていただきます。

ビブリオバトルって、知ってる?

ビブリオバトルとは・・・

参加者が自分の好きな本を持ち寄って、どのような魅力があるのかをほかの参加者へ伝える、
本の紹介コミュニケーションゲームです。

“人を通して本を知る。本を通して人を知る。”

ビブリオバトルのやり方



いつでも、どこでも、一冊の本があればできてしまうのも一つの魅力! 興味のある方は、司書まで

新着図書

『一線の湖』

とがみひろまさ
砥上裕將著



墨一色に無限の色彩を映し出す水墨画を通して、主人公の水墨画家としての葛藤と成長が描かれている、感動必至の青春小説。

『かたばみ』

木内昇著



タイトルのかたばみはクローバー❀に似た雑草のこと。その花言葉は「母の優しさ」。幼馴染みの忘れ形見を養子にして育てていく主人公の生き方は感動です。

『朽ちないサクラ』

柚月裕子著



今年、映画化された作品。著者曰く「この作品は、世の中の理不尽や不条理なことに、懸命に立ち向かっていく人間を書きたくて出来上がった作品」との事。

『それでも人生にイエスと言う』

V・E・フランクフル著



ナチスによる強制収容所の体験として全世界に衝撃を与えた『夜と霧』の著者が、その体験と思索を踏まえてすべての悩める人に「人生を肯定する」ことを訴えた感動の講演集。

『杉森くんを殺すには』

長谷川まりる著



衝撃的なタイトルで物語は義兄に「杉森くん殺害計画」相談する所から始まります。なぜ殺したいのか。真相は思いがけないものでしたが、考えさせられる名作です。

『なぜか人生がうまくいく優しい人の科学』

和田秀樹著



優しいからうまくいくのか？うまくいくから優しいのか？心に余裕を持つための考え方14のコツ。自分の周りにいいことが起こる行動習慣も書かれています。

『エリア・スタディーズ』

世界の国・地域の入門書としてガイド本よりも深く、専門書よりも浅くというコンセプトで世界193ヵ国を超えたシリーズ本になっています。



『今日もていねいに。BEST101』

松浦弥太郎著



著者の代表的なエッセイ本です。
そもそもエッセイとは？
著者の実体験や考え、知識、経験などを文章にしたものです。
本の中から一つ紹介しますね。

意見は違ってもあたりまえ 松浦弥太郎
じっくり比べてみたならば、右手と左手は違います。指のかたち。爪の大きさ。関節の太さや、しなり具合。
自分の手ですら違うのですから、人がみんな違うのは自然なこと。意見が違ふ、合わない、というのも当然のことです。
家族だから、友だちだから、恋人だから同じ会社で一緒に働く者同士だから。たったそれだけの理由でみんなの意見が一致するなど、あり得ない話だと思います。
「私はこう思うんだけど、あなたも同じだね？」たびたび確かめて安心したくなる気持ちにはわかりますが、あまり意味がないと思います。自分一人だけが、意見の違いを指摘されたとしても、気にする必要はさらさらないと感じます。「人はみな違うし、意見も違う」この前提をつくってしまうほうが、コミュニケーションはうまくいきます。